

学力低位の子を救い上げる読み書きと計算の取り組み

さかのぼり指導と満点大作戦

いずみ学力研 金井 敬之

2つの手立て

学力低位の子を救う手立ては、大きく分けて2つある。「さかのぼり指導」と「満点大作戦」である。

さかのぼり指導は、当該学年以前の内容を復習する取り組みである。計算や漢字学習に有効である。子どもたちの「つまりさき」は、その学年の学習課題にあるだけでなく、前学年の学習を理解していないことにある。中学年、高学年で計算の苦手な子は、2年生のかけ算九九や1年生で習った九九などのくり上がり、16-8などのくり下がりなどの計算でつまづいていることが多い。計算領域は、低学年からの積み重ねなので、さかのぼり指導は特に効果がある。

私たち学力研の教師が100ます計算基本わり算A、B、C型などの基礎計算の習熟に力を入れるのは、高学年につな

がる計算力を高めることにつながるからである。

漢字のさかのぼり指導は、漢字に対する苦手意識を取り除き、語彙力を高める効果がある。1年生の漢字を覚えると、すぐに2年生の漢字がわかるというわけではないが、当該学年の漢字を練習するだけでは、漢字を習得することは困難である。漢字の習得は、字形の認知や語彙力に規定されるので、低学年の漢字を覚えれば、高学年の漢字も簡単に覚えられ、というわけではないが、漢字が苦手な子は2年生あたりからまちがいが目立つようになる。

学力研1000名プロジェクトの岡篤さん(研究局長)は、自身の学校へ入る前の漢字指導で、「漢字の苦手な子は言動が幼い」「漢字の習得率が上がると、学校が落ち着いている」ということを実感

したそうだ。学級で問題行動を起こす子のほとんどは、漢字の習得や書くことが苦手であることが多い。

漢字総復習

今回は、2学期末から3学期にするのが最適な漢字総復習について紹介する。

新出漢字の学習が終わる、漢字テストが終わってから、「漢字総復習」に取り組む。1年生の漢字から順に復習していくと、漢字が苦手な子にもやりやすい。光文書院の全漢字テストプリントを使用した。(小学館の「徹底反復漢字プリント」も適している)各学年95%以上を合格ラインとした。問題文のプリントを練習させるのが、一般的なやり方だが、漢字が苦手な子は、プリントに漢字を書いていくのが苦痛である。そこで、解答プリントを薄く印刷し、なぞらせることから始める。そのことで、苦手な子の抵抗を少なくし、どの漢字を覚えなければならぬかという見通しをつけることができる。なぞり書きという過程を入れることが、漢字のさかのぼり指導の成功のポイントだと自分は思っている。なぞり書

き1回、問題のプリント2回、まちがった漢字をノートに練習させ、本番のテストを迎える。学級の実態にもよるが、1回で95%を達成するのが困難だと思われるときは、合格基準を70%、90%、95%と徐々に上げていくという方法もある。これも、漢字が苦手な子には抵抗が少ない方法である。このようなやり方で、1年から順に総復習をしていく。自分の経験では、高学年で3年の漢字をクリアすると、4年生以降も意欲的に取り組む子が大多数であった。やり方にも慣れ、漢字に対する苦手意識が軽減されるからだと思う。

満点大作戦

「満点大作戦」は、当該学年の学習内容を定着させ、100点を取らせる取り組みである。漢字総復習は、過去の学習をおさらいすることによって低位の子を救う取り組みであり、満点大作戦は、現在の学習で低位の子を救う方法である。

子どもたちは、100点を取ると、達成感を持ち、意欲的になる。その教科が好きになり、得意だと思っようになる。

心理学には、「楽しいから笑うのでなく、笑うから楽しくなる」というシエームス・ランゲの法則(アメリカの心理学者シエームスとデンマークの心理学者フングとによって、1884~85年の同じころに唱えられた心理学における有名な理論)があるが、教育現場には、「できるから100点を取るのではなく、100点を取るからできるようになる」という子どもの実態がある。自分ができることで、意欲や自尊心を高めていく。100点にはそんな力があるように思う。

満点大作戦は、学力テスト対策で、学校や市町村の平均点を上げるために過去問をすることは大きく違う取り組みである。

以前、3年生で行った理科の満点大作戦の実践である。テスト範囲の教科書を音読し、理科ノートを仕上げる。ノートの余白のページに要点をまとめる。そのあと上質紙にまとめ直すのである。トレーシングペーパー(写し紙)で絵を入れたり、大事なところを赤で書いたり、線を引いたりする。(トレーシングペーパー

で写し取るという作業は、絵を描くのが苦手な子にも好評であった。今回だけでなく、社会などの時間にも活用できる。早くできた子はノートに問題づくりさせる。このまとめ子どもが作った問題を使って、4人班でテスト勉強させた。自分だけでなく、班全員が満点を取れるように、問題を出し合ったり、教え合ったりするのである。

全員満点大作戦は結果だけでなく、学習する過程を大切にしたい。自分でまとめたり、問題作りを作ったりすることは、高学年の勉強法や中学の勉強につながる。

教科書を読み、要点を文章や絵でまとめるという学習の仕方を身につけると、ひとりで学習するより、みんなで学習するほうがかしくなる、人に伝える(教える)ことでより理解が深まるという3つの体験をしてほしいというねらいもある。

結果は、31人中100点が21人、90点台が9人、80点台が1人であった。